

今年度は8月～11月の気温が平年より高めに推移したため、果実の成熟が平年及び前年より進みました。
また、糖度は平年並みで、前年より高い傾向がみられました。

令和2年のまとめ

令和2年の気象

令和2年1月～12月の月別気象を表1に示した。月平均気温は、4月、7月、10月及び12月は平年より低く、他は平年より高かった。1年間の平均気温は16.5℃で平年より0.9℃高く、前年より0.2℃高かった。降水量は2月、5～6月及び8～12月で平年より少なかった。1年間の合計は1,871mmで平年の92%、前年の72%であった。日照時間は2月、7月、9～10月及び12月で平年より少なく、他は平年より多かった。1年間の合計は1,949時間で平年の101%、前年の97%であった。

表1 令和2年の気象（暖地園芸研究所）

年 月	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (時間)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
R2 1	8.0	6.0	6.6	204	90	24	206	170	206
2	9.0	6.3	7.8	51	97	89	102	152	102
3	11.1	9.2	10.7	244	186	112	170	157	180
4	13.3	13.9	13.1	199	174	214	191	172	199
5	18.9	17.8	18.5	105	174	158	186	177	235
6	22.4	20.7	20.9	207	244	299	140	133	157
7	23.9	24.4	23.5	405	194	291	76	169	105
8	27.2	26.0	27.1	16	144	72	303	217	229
9	23.9	22.7	24.4	161	250	321	137	145	191
10	17.4	17.9	19.7	244	250	662	122	137	119
11	14.8	13.2	13.7	33	148	252	159	145	161
12	8.4	8.6	9.8	2	85	97	157	165	129
平均/合計	16.5	15.6	16.3	1,871	2,036	2,591	1,949	1,939	2,013

令和2年の樹及び果実の生育

本年は裏年に当たるため、普通温州では着花量にばらつきがみられた。また、前年の表年による着果負担や台風による被害等から、樹勢が低下している樹も散見された。

暖地園芸研究所における発芽期は、「日南1号」が3月24日、「興津早生」が3月27日、普通温州が3月31日であり、いずれの品種も平年より11～14日早かった。前年と比較すると、「日南1号」は前年並み、「興津早生」は5日遅く、普通温州は4日早かった。

開花盛期は、「日南1号」が5月6日、「興津早生」が5月7日、普通温州は5月12日であり、いずれの品種も平年より4～6日、前年より6～8日早かった。

調査3園地(表3-注2)の収穫期の横径は、4品種ともにほぼ平年並みであった。前年と比較すると、「日南1号」及び「大津4号」はほぼ前年並みで、「興津早生」及び「青島温州」は大きかった。縦径は「日南1号」が平年及び前年より短く、他の3品種はほぼ平年並みで前年より長かった。一果重は「日南1号」が平年及び前年よ

り軽く、他の3品種はほぼ平年並みで、前年より重かった。着色は「日南1号」は平年より遅れがみられ、ほぼ前年並みであったが、他の3品種はほぼ平年並みで、前年より着色が進んでいた。糖度は4品種ともにほぼ平年並みで、前年より高い傾向であった。酸度は4品種ともに平年より低い傾向であった。前年と比較すると、「日南1号」及び「大津4号」は低く、「興津早生」は高く、「青島温州」は同程度であった。甘味比は「日南1号」はほぼ平並みで前年より高く、他の3品種は平年より高く、前年と同程度～高かった。

果肉歩合は4品種ともにほぼ平年及び前年並みであった。

表2 令和2年の発芽期及び開花期（暖地園芸研究所）

品種	発芽期（月・日）			開花期（月・日）								
	本年	平年	前年	始期			盛期			終期		
				本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	3.24	4.4	3.25	5.6	5.4	5.6	5.6	5.10	5.13	5.11	5.15	5.20
興津早生	3.27	4.9	3.22	5.6	5.8	5.6	5.7	5.13	5.13	5.11	5.18	5.20
普通温州	3.31	4.14	4.4	5.7	5.12	5.13	5.12	5.18	5.20	5.19	5.22	5.23

注1) 平年：過去25年間の平均値（「日南1号」は平成27年～31年の平均値）

2) 普通温州：「大津4号」と「青島温州」の平均値

表3 令和2年の果実品質

品 種	横 径(cm)			縦 径(cm)			一果重(g)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	6.6	6.7	6.6	4.8	5.1	5.1	118.3	125.6	122.7
興津早生	6.5	6.5	6.0	5.0	5.0	4.7	115.7	114.8	92.7
大津4号	7.5	7.6	7.7	5.1	5.0	4.7	146.1	146.7	119.8
青島温州	7.4	7.4	6.9	5.1	5.0	4.7	141.8	140.3	119.4

品 種	着色程度 (0~10)			糖 度 (%)			酸 度 (%)			甘味比			果肉歩合 (%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	2.6	4.3	2.0	8.3	8.4	7.7	0.96	1.05	1.20	8.7	8.4	6.4	86.1	83.1	82.8
興津早生	7.1	7.0	4.3	9.2	9.3	8.2	0.88	1.03	0.78	11.1	9.5	11.0	84.5	81.8	82.5
大津4号	8.7	8.1	6.9	10.2	10.0	9.2	0.77	0.88	0.82	13.4	11.6	11.4	75.5	75.4	76.5
青島温州	7.8	7.6	6.1	9.4	9.4	8.6	0.82	0.89	0.83	11.7	10.6	10.4	74.6	74.8	74.9

注1) 平年値は平成11～令和元年の値（「日南1号」は平成27～令和元年の平均値）

2) 南房総市三芳地区、同千倉地区及び暖地園研の3園地の平均値

（「日南1号」は暖地園芸における調査のみ）

3) 甘味比＝糖度／酸度

4) 果肉歩合＝（果肉重／1果重）×100

5) 収穫日は「日南1号」：10月2日「興津早生」：10月30日

「大津4号」及び「青島温州」：12月2日

病害虫、生理障害の発生

令和2年の果樹カメムシ類の発生は、5月から7月にかけて誘殺数が増加し、8月上旬頃まで多く誘殺された。9月から誘殺数の減少がみられ、10月からはほとんど誘殺されなかった。年間でみると中発生であった。暖地園芸研究所内では、温州ミカンでの加害は散見される程度であった。来年の発生予測は中発生の見込みであるため、園への飛来に警戒する。

黒点病及び果実腐敗は散見される程度であった。ミカンハダニの発生は中程度で、サビダニの発生は少ない傾向であった。

浮皮果の発生は少ない傾向であった。

1月以降の栽培管理

防寒被覆

寒さに弱い幼木や風当たりの強い場所で重点的に行う。低地では樹冠上方を、風当たりの強い場所では樹の全体を被覆資材で覆う。コモ、稲わら、網や寒冷しゃ、ビニル等が保温の目的で用いられる。

土づくり・施肥

高品質のミカンを生産するため、土壌診断などで定期的に土壌の物理性及び化学性を把握し、2～3月に堆肥等有機物を3月上旬に春肥を施用する。

間伐・せん定

せん定の前に、密植園では間伐を実施する。間伐することで、作業性の向上、高品質果実生産につながる樹形への整枝ができるようになる。

せん定はノコギリを用いた大きな枝のせん除から始まり、その後せん定鋏を用いた比較的細い枝の間引き、切り返しの順で行うと効率が良い。強せん定は徒長した枝が発生しやすく、隔年結果を助長させるため、あくまで弱せん定が基本である。樹によってはせん定を行わないか、大枝の除去のみで良い場合も多く、切り過ぎないように注意する。

病害虫の防除

せん定時には黒点病やそうか病、かいよう病の防除のため、枯れ枝や罹病枝葉を除去し、園外で処分し、園内の菌密度を下げる。そうか病は発芽した芽が1 cm程度に伸びた時期（4月中旬）及び落花直後（5月下旬）に薬剤防除を行う。かいよう病の防除は発芽前と5月中旬に行う。銅水和剤の散布は、農薬のラベルをよく読み、他の農薬との散布時期の調整を行う。

カイガラムシ類、ダニ類の防除のため、せん定した後、発芽前までにマシン油乳剤の散布を行う。ただし、樹勢の弱い樹への散布は避ける。また、厳冬期は落葉する危険があるため散布を避ける。

防除に際しては、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも

御覧いただけます。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>